

広報

もり 中部の森林



写真：レンゲツツジとカモシカの子供（湯ノ丸高原ビジターセンター提供）

シリーズ「秘蔵写真・今は昔の林業」
今月号は、「木登り」

特集

- ・ 恵南豪雨災害を振り返る～発生から20年～
各地からのたより
 - ・ 諏訪大社下社（春宮・秋宮）の御柱用材8本を伐採！ほか
- シリーズ
- ・ 森林官からの便り、私の森語り、秘蔵写真・今は昔の林業、中部の保護林



林野庁中部森林管理局



2021/No.207

恵南豪雨災害を振り返る～発生から二十年～

【東濃森林管理署】

はじめに

近年、異常気象による大規模災害が日本各地に大きな被害をもたらしており、国土の保全が益々重要となっております。

東濃森林管理署管内では平成十二年九月に岐阜県恵那郡上矢作町（現在の恵那市上矢作町）において、「恵南豪雨災害」と呼ばれる甚大な災害が発生しました。

令和二年で恵南豪雨災害発生か

ら二十年という節目の年を迎えたことから、当時の災害状況を振り返るとともに、これまで取り組んできた、災害復旧事業と今後の取組について報告します。

I 恵南豪雨災害の概要

・東海地方全体の被害状況

平成十二年九月十一日から十二日にかけて日本海付近に停滞していた秋雨前線

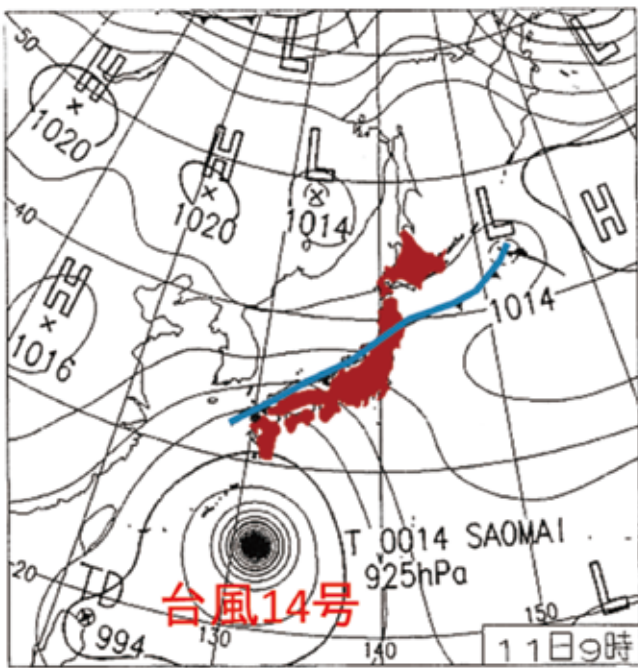


図1：天気図

に台風十四号からの暖かく湿った気流が流れ込んだことにより前線の活動が活発となり、東海地方を中心に記録的な豪雨をもたらしました。（図1）



図2：上矢作町の被災箇所

・岐阜県内の被害状況
岐阜県内の被害状況は、上村川と矢作川が流れている上矢作町に集中し、上村川の氾濫により、死亡者一名、住家の全（流）・半壊二十三戸の被害が発生しました。（図2・写真1）
※県内の人的被害は、死亡者一名、重傷者一名となっております。

また、至るところで土砂崩れが発生し、国道などが通行不能になったほか、インフラ設備にも多大な被害を及ぼしました。
その結果、上矢作町全戸で停電や断水となり、主要な国道等の寸断により百二十七世帯四百三十人が一時孤立状態となるなど甚大な被害が発生しました。



写真1…上矢作町の被災状況



・国有林の被害状況

当時の東濃森林管理署中津川事務所管内の被害は、山腹崩壊が百六十九箇所、林道被害は十一路線で橋梁の流出・路肩決壊が約五・六キロメートルとなり全体の被害金額は約百四十二億円に上りました。(写真2)



写真2：山腹崩壊発生状況

Ⅱ 治山事業による災害復旧

今回の災害では、山腹崩壊により発生した倒木の流出により民家などへの被害が拡大したため、平



写真3：流木捕捉状況



図3：流木防止対策施工箇所

成十三年度に上村川へ繋がる飯田洞川と白井沢の二つの支流に、流木防止効果があり、かつ短期間に施工ができる鋼製スリット谷止工と鋼製谷止工を三基施工し対策を行いました。(図3・写真3)

Ⅲ 現在の復旧状況

その後、令和元年度までに崩壊箇所の復旧のためコンクリート構造物を含む溪間工を五十七基、山腹工を約三十八ヶ所施工し復旧に取り組んできました。土の移動を止めることで、木が育つ条件を整えることができたことから、災害直後には大きく崩れていた山肌が現在では森林に回復しています。(写真4)

Ⅳ 今後の取組

恵南豪雨災害では、当該地域周辺の地質が崩れやすい風化花崗岩のマサ土であったことや山腹崩壊による大量の流木が被害拡大の要因となりました。そこで現在、マサ土の崩壊を効果的に抑えることができる植生マット等の試験施工や新たな流木捕捉工の施工・検証を行っているところです。

また、谷止工の設置や補修により大量の土砂流出を防ぎ、早期の林地復旧と防災・減災に努めたいと思います。

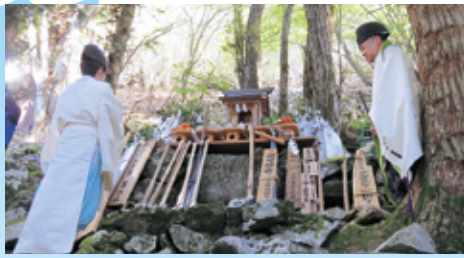


写真4：災害直後と復旧後20年経過した状況（白井沢支流）





完成した「春宮一之御柱」



斧立社での神事



春宮一之御柱に斧入れする氏子



樹高31mの春宮一之御柱



チェーンソーを使用している様子

諏訪大社下社
(春宮・秋宮)の
御柱用材八本を伐採!

【南信森林管理署】

五月十日、長野県諏訪郡下諏訪町の東侯国有林において、令和四年諏訪大社御柱大祭に向けた下社の御柱用材の伐採が行われ、当署の職員も伐採に立ち会いました。

管内の諏訪地域には、古くから七年に一度「寅」と「申」の年に宝殿の造り替え、社殿の四隅に「御柱」と呼ばれる樹齢二百年ほどのモミの巨木を曳き建てる諏訪大社最大の行事である「御柱大祭(正式名称は「式年造宮御柱大祭」)」が行われています。

新型コロナウイルスの感染防止対策により神職、伐採等を行う氏子を最小限として、報道機関も入山規制し、従来行われていた勇壮な山中に響き渡っていた「木遣り」も行われないうち異例づくめでの開催となりました。

伐採に先立ち斧立社で伐採に使用する斧(「オノ」とも呼びます)、鋸切り等の道具類が整然と並べら

れ、厳粛な雰囲気の中、安全に伐採が行われるよう神事が執り行われました。

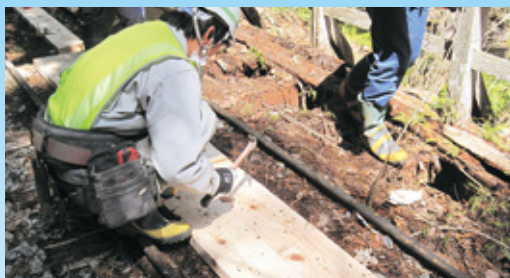
その後、氏子達は祈願された斧、鋸切り等を持って各地区協議会が担当する御柱へ移動し、午前八時、春宮一之御柱の清祓を皮切りに各御柱の伐採が行われました。

伐採は、通常であれば、斧と鋸切りで行いますが今回は滞在時間短縮のため、感染防止対策として、チェーンソーを使用し、作業終了時間を制限するなど、正に異例の作業となりましたが、御柱用材八本が制限時間内に伐採されました。

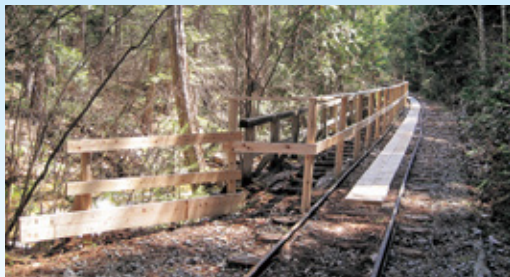
今は、一日も早く新型コロナウイルスの感染が終息し、令和四年の春には勇壮な「諏訪大社式年造宮御柱大祭」が開催されることを祈るばかりです。



※「木遣り」とは、御柱祭で木を曳く際に唄う木遣り歌のこと。木を曳く際の安全を願い、人々に勇気と力が出るように唄います。「木遣り無くして御柱は無く、御柱無くして諏訪は無し、木遣りこそ御柱の華である」といわれています。



遊歩道の板の張替え作業の様子



完成した遊歩道の様子



園内で運行している赤沢森林鉄道



杭打ち作業の様子

冷沢コースは赤沢自然休養林の中でもっとも美しい木曾ヒノキが生育しているコースで、秋になると下層の広葉樹が色づき、人気のコースとなっています。

遊歩道を整備する資材(丸太材や板材等)は木曽森林管理署と長野県林業土木協会が用意し、作業地までは、園内で運行されている赤沢森林鉄道を使って運搬しました。

森林鉄道に木材や作業員が乗っ

【木曽森林管理署】
四月二十日、長野県木曽郡上松町の赤沢自然休養林において、長野県土木協会木曽支部会員によるボランティア活動が行われました。

昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりましたが、今年度は、新型コロナ感染症対策を徹底した上で実施されました。

当日は、二十三名の会員が、赤沢森林鉄道終点の丸山渡から冷沢コースへ進む遊歩道の整備を行いました。

「冷沢コースは赤沢自然休養林の中でもっとも美しい木曾ヒノキが生育しているコースで、秋になると下層の広葉樹が色づき、人気のコースとなっています。」

遊歩道を整備する資材(丸太材や板材等)は木曽森林管理署と長野県林業土木協会が用意し、作業地までは、園内で運行されている赤沢森林鉄道を使って運搬しました。

森林鉄道に木材や作業員が乗っ

遊歩道整備作業は、手際よく進み、四十ほどほどの遊歩道が生まれ変わりました。

水本木曾支部長からは、「コロナ禍ではあるが、来園者には新しくなった歩道を利用し、森林浴を楽しんでほしい」とお話がありました。

赤沢自然休養林は、十一月七日までの開園予定です。詳細は上松町観光サイト(QRコードを読み込んでください)にて、ご確認いただけます。感染症の状況に注意しながら対策を徹底した上で、森林浴発祥の地へお越しください。

ボランティアによる
赤沢自然休養林遊歩道整備



【岐阜森林管理署】
聖火が金華山へやってきた
 ～聖火リレー in 金華山～



四月四日、東京二〇二〇オリンピック聖火リレーが岐阜市の金華山国有林を駆け抜けました。

当日、オリンピック聖火は夕闇迫る小雨の中、聖火ランナー達の手により岐阜公園～金華山ロープウェイ～金華山山頂駅へと運ばれ、山頂駅からは岐阜城天守閣まで一気に駆け上がるコースを五名のランナーの手によって運ばれました(国有林おさんぽMAPの『金華山山頂遊歩道コース』と同じコースです)。

コースとなった登山道は狭く、密を避けて安全を確保するため、一般の応援はできない状況下で行われたことから、他の地域で行われた聖火リレーとは趣が異なり、暗闇の中、赤々と灯った聖火が静かに走り抜けていくものでした。

その様は、まるで戦国時代、松明を携えた武將が蘇ったよう幻想的にも見えました。



岐阜城へ向かう聖火ランナー

この岐阜城は、かつては稲葉山城と呼ばれ、戦国時代の武將斎藤道三公の居城で知られているところ。当時、道三公はこの地で「美濃を制するものは天下を制する」といっていました(織田信長公の言葉という説もあります)。

これにあやかり、東京二〇二〇オリンピックへ参加される多くのアスリートの皆さんにも、日頃から培った実力を、存分に発揮されることを期待したいです。

※通常、登山道は火気厳禁ですが、今回は特別な許可のもと行われました。

「とやま森の祭典 2021」において
ブースを出展



【富山森林管理署】

五月十六日、富山県魚津市「魚津桃山運動公園」において「とやま森の祭典」をテーマに、とやま森の祭典2021(主催:富山県・公益社団法人とやま緑化推進機構)が開催されました。当公園は、平成二十九年に天皇后両陛下ご臨席のもと開催された、第六十八回全国植樹祭の会場です。

式典では、林業関係者ら約五百人が参列し、森林づくり活動、県産材利用で功労のあった個人と団体への表彰が行われました。



式典の様子

記念植樹では、当署から来賓として出席した門脇署長がツツジを植樹し、また会場では、間伐等のデ



展示ブースに集う参加者の様子

モンストレーションも行われました。式典後に開催された展示・物販会では、木製品のPRや林業機械の実演、特産品の販売、森林づくりや木づかい運動の取組紹介など約三十のブースが出展されました。

当署では、感染症対策を徹底するとともに人数制限を設けながら、木工クラフト教室を開催しました。

参加者からは「上手にできました」、「楽しかった」などの声をいただきました。

展示ブース内では、木材の循環的利用や災害の防止など森林の持つ公益的機能に関するパネルを展示し、PRすることもできました。



シリーズ

森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【木曾森林管理署 瀬戸川森林事務所】
地域統括森林官 志水 章彦

当事務所は、長野県木曾郡王滝村に所在し、霊峰御嶽山の南麓から木曾郡上松町境までの約五、九〇〇鈔の国有林野を管理しています。地域統括森林官は、王滝村内の国有林約二五、九〇〇鈔の総合的な調整を行うため、王滝治山事業所、南滝越、氷ヶ瀬森林事務所、南滝越、氷ヶ瀬森林事務所の職員六名と連携し仕事を進めています。

四月は、総延長約三〇〇キロメートルもある林道整備から始まります。春先は落石等が多く発生するため林道担当者は多忙となります。

木材の生産事業は、主に人工林ヒノキ、カラマツの間伐に加え、天然の木曾ヒノキやサワラなどを生産しています。

造林事業地では、笹が多く現地での作業は苦勞しながら進めています。



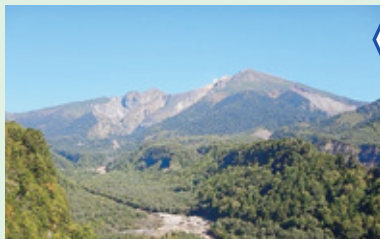
濃い笹の中立つ木曾ヒノキ

また、昭和五十九年の長野県西部地震による災害跡地復旧事業も三十七年経ち、植栽したハンノキ等の樹木が大きく生長し、復旧のための治山事業も継続しています。

王滝村は、御嶽山への信仰登山で有名ですが、村内には、田の原天然公園（木曾御岳自然休養林）の



昭和59年（1984年）当時



現在の様子。蘇った緑の森林

散策や、おんたけ2240スキー場などの施設もあります。また、松原スポーツ公園には、王滝森林鉄道のレールを復元したコースに、自転車を改造した乗物で走る「林鉄バイク」もあります。

■未来の担い手へのメッセージ
森林官の仕事は、生物多様性の



職員7名（筆者写真下段左から2人目）

保全や国土の保全、森林経営等、将来を見据えた山作りを四季折々の自然の営みとともに、やり甲斐のある仕事です。



林鉄バイク（松原グラウンド）

シリーズ

「私の森林語り」

もりかた

森林・林業との関わりの中で、
様々な課題に挑戦されている方
の取組を紹介します。



（株）飛驒の森でクマは踊る
（通称：ヒダクマ）マーケティング
井上 彩

■自己紹介

三年前の入社をきっかけに飛驒へ移り住みました。ヒダクマではWEBサイトの記事の編集やメールマガジン、イベントの企画・運営などを担当しています。

■活動内容

ヒダクマは、市内森林の七割を占める広葉樹の活用と地域経済の創出を目標に掲げ、岐阜県飛驒市と全国で森林・林業のプロデュースを行う（株）トビムシ、東京のクリエイティブ・カンパニー（株）ロフトワークが出資し、二〇一五年に設立しました。



曲がり木をAR技術でチェーンソー加工

空間・家具の設計・製作、商品開発の支援のほか、町中にあるデジタルものづくりカフェFabCafe Hida（ファブカフェヒダ）の運営などを行っています。

細く曲がった木。土場に長らくあったボロボロの丸太。皮付きの耳材。製作時に出た端材。それらほぼ価値がないとされる木は、建築家・デザイナーのアイデアと職人の高い技術、最新のテクノロジによって、木の個性を生かしたプロダクトに生まれ変わります。ヒダクマの仕事はそのイメージを具現化するため、森と建築家、

地域の人の間をつなぐこと。私たちは、プロダクトの魅力はもろろん、企画から製作に

関わる人がチーム一丸となってつくることを大事にしています。FabCafe Hidaは、新しい出会いやコミュニティを育む交流拠点です。高貴な香りが特徴の木を焙煎したクロモジコーヒーを味わったり、鉋やレーザーカッターを使つたものづくり、森への理解を深めるイベントを楽しむことができます。



渋谷・宮下パーク内のカフェ前に設置した曲がり木のプロダクト

■今後の展望（メッセージ）

ヒダクマの取り組みは、飛驒市が推進する「広葉樹のまちづくり」と連動しています。目標は木材の価値を高めるだけではありません。ヒダクマの挑戦は、地域の子どもたち、大人、おじいちゃんやおばあちゃんにとっての森とともに

にある暮らし・文化をいかに守り、未来につないでいくかということに重なり合っています。今後、地域内外の人と協働し、飛驒ならではのより良い森と人との関係を考え、それを支える一助となれるよう頑張っていきたいです。



様々な木を1グラム1円で量り売り「蔵出し広葉樹」

○連絡先

株式会社飛驒の森でクマは踊る
〒五〇九一四一三三五
岐阜県飛驒市古川町式之町六番一七号
TEL〇五七七―五七七―七六八六
ホームページ
hidakuma.com



シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第2回

中部森林管理局技術普及課

井上 日呂登いのうえ ひろと

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

「木登り」

高い位置の大きな枝を払ったり、優良な種子を採取したり、架線集材機かせんしゅうさいきを使用するために支柱とする木に器具を取り付けるといった目的で、木に登ることがありました。

しかし木登りと言いますが、途中の枝も少ない成長したスギやヒノキなどに登るのは



「かんじき式」 昭和三十年頃、妻籠営林署
(現在の木曽森林管理署南木曽支署管内)

容易なことではありません。このため、木登り用の道具が使われました。「かんじき式」は木登り用のスパイクのようなものです。「ぶりなわ式」は麻縄あさなわの両端に棒を付けたもので、足場を作りながら登ります。

ヘルメットも着用していない高所の作業であり、現代の労働安全に対する感覚からすれば恐ろしい風景でもあります。



「ぶりなわ式」 昭和三十一年、上松営林署
(現在の木曽森林管理署管内)



「木登風景」 昭和三十一年頃、付知営林署
(現在の東濃森林管理署管内)

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。
当サイトへは、QRコードを読み込んでください。



北アルプスを代表する多様な自然

北アルプス(金木戸川・高瀬川源流部) 森林生態系保護地域

設定目的

日本海型気候から太平洋型気候への推移帯である本州中部に位置し、北アルプス(飛騨山脈)を代表する原生的で多様な天然林が存在しています。

その生態系を保護・管理し、自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林施業・管理技術の発展、学術研究等に役立てるため、保護林として設定しています。

地況・林況

笹ヶ岳、黒部五郎岳等に囲まれた金木戸川上流域と、槍ヶ岳、大天井岳等に囲まれた高瀬川源流部に位置する山岳地帯です。山地帯上部には日本海型のアカミノウツゲ・クロハ群集が、亜高山帯には太平洋型のシラビソ・オオシラビソ群集が発達しています。高山帯を最も特徴づけコケモモ・ハイマツ群集の常緑低木林もあり山頂周辺や山稜斜面の不安定な砂礫地には高山荒原植物群落が見られます。

所在地
長野県大町市、岐阜県高山市



※自然保護のため、詳細な位置情報は掲載していません。

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



※詳細は、QRコードを読み込んでください。



「SDGs宣言」を表明 (一社)名古屋林業土木協会

【総務課】

SDGs (Sustainable Development Goals) とは、国連が定めた持続可能な開発目標のことです。

生活が豊かになった一方で、人間活動が地球環境に負荷を与え、気候変動、自然災害、感染症など様々な問題が世界の社会や経済に影響する状況になりました。

そこで、全ての国の全ての人々が、この問題に取り組むために定められたのが、「陸の豊かさも守ろう」など十七の目標からなるSDGsです。

森林と、その恵みを活かす林業や木材産業は、様々な生物や水を育み、災害を防ぎ、炭素を蓄えたりと、SDGsの達成に大きく貢献しています。

こうした中、一般社団法人名古屋林業土木協会(会長・三尾秀和)は、本年四月一日に「SDGs宣言」



を行い、「建設業としての林業土木は森林の保全、インフラ整備、防災、環境、エネルギーといった暮らしに大きく関わるもので、SDGsのあらゆる面に関与しているため、本気で行動し、持続可能な地域社会に貢献していく」ことを表明されました。

こうした取組が治山・林道への理解促進や、森林・林業・木材産業の人材確保につながることを期待されます。

デジタル森林紀行紹介

デジタルテーマ「緑」

4. 戸隠植物園散策路

新型コロナウイルスの感染リスクを下げるために全ての場面で引き続き守ってほしいこと

- マスク着用や三密(密閉・密集・密接)の回避を徹底しましょう。(室内の場合)
- 換気を良くしましょう。(室内の場合)
- 集まりは、少人数・短時間を心がけましょう。
- 大声をださず会話はできるだけ静かにしましょう。
- 共用施設の清掃・消毒、手洗い・アルコール消毒を徹底しましょう。

改めて、三密の回避、手洗い、マスク着用、換気、共用施設の消毒などの徹底をよろしくお願いいたします。

詳しくは、次のQRコードを読み込んでください。

- ◇感染リスクが高まる「5つの場面」(内閣官房)
- ◇新型コロナウイルスについて(農林水産省)

編集長だより

(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、migoro@maff.go.jpまで電子メールでお送りください。)

長野県北部では、春の終わりをつげる山菜、根曲がり竹(チシマザサ:日本海側から北海道にかけて分布する細いタケノコです)が市場に出始めています。例年、私の食卓に並ぶ山菜は、フキトウ、コゴミ、タラノメ、コシアブラ、ウド…の順となっています。そして、春の山菜のフィナーレを飾るのが、「根曲がり竹」ですが、採取するに2メートルもある笹藪をかき分けて進むことから、毎年道に迷って遭難する人や熊に襲われる人等、山菜取りの中でも難易度は高く、採取には完全防備が必要です。

根曲がり竹は、あく抜きをせずに、皮を剥いたら、味噌汁や煮物にしたり、皮付きのまま焼いて食べられます。また、北信州の県民が愛してやまない郷土料理に「鯖缶とタマネギ・豆腐を入れたタケノコの味噌汁」があります。

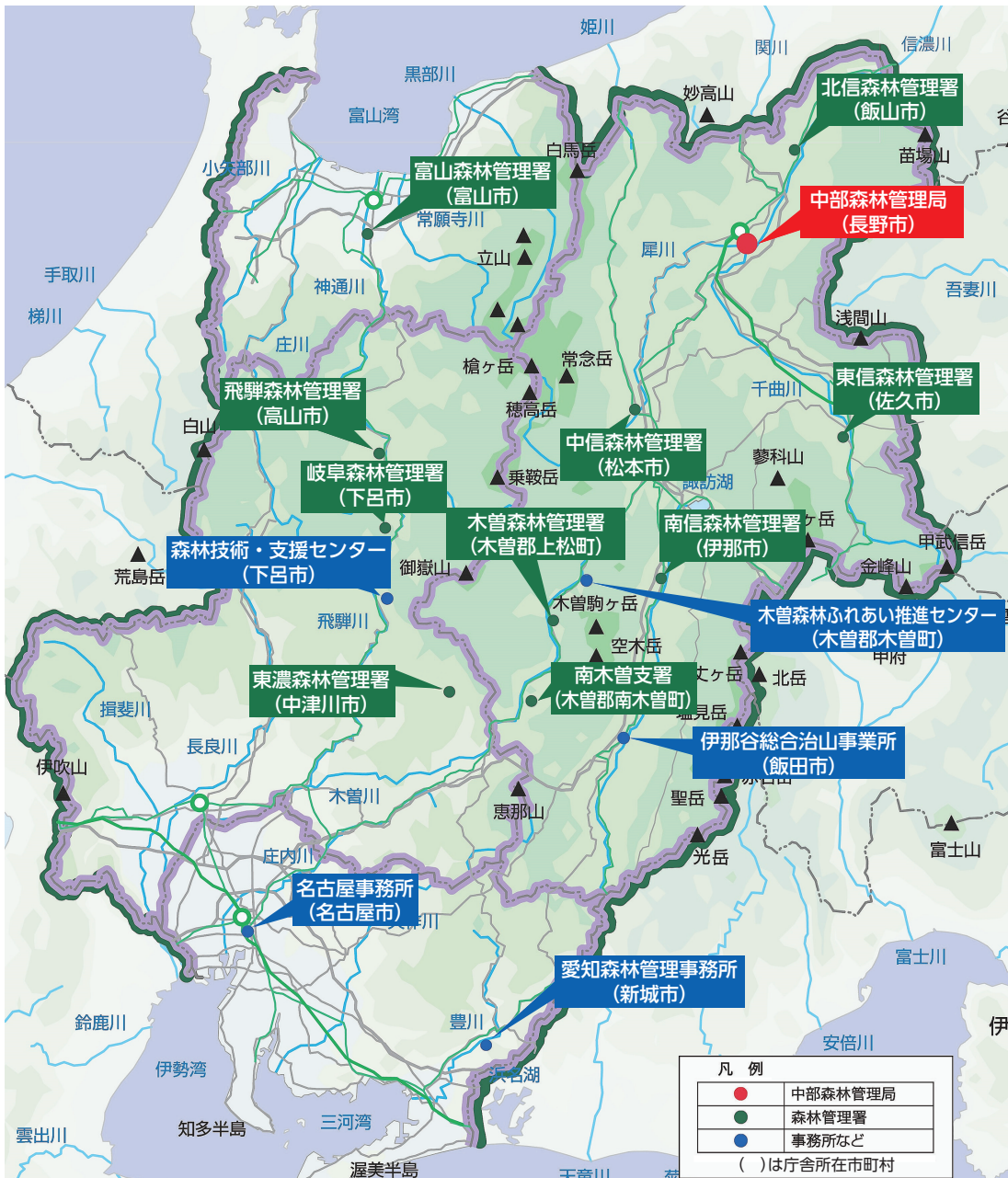
老若男女!自然の恵みを堪能できる季節です。最後に、新緑の季節を、いつでもお気軽に自宅から森林や自然の風景を楽しむことができる「デジタル森林(もり)」で、美しい風景もご覧になってください。



デジタル森林への入場ゲートは、左のQRコードを読み込んでください。



バーチャルタケノコ採り!(こんな目線でタケノコを探します)根曲がり竹は、3本あります。わかるかな?



中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下のQRコードを読み込んでください。



中部森林管理局ホームページ



広報「中部の森林」



用語の解説
本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。

凡例	
●	中部森林管理局
●	森林管理署
●	事務所など
()	庁舎所在市町村

名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中区熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	FAX 052-683-9269
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	FAX 076-424-4934
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	FAX 0269-62-4144
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	FAX 0263-47-4754
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	FAX 0267-82-6959
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	FAX 0265-72-7774
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	FAX 0264-52-2582
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	FAX 0264-57-2686
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	FAX 0577-34-8932
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	FAX 0576-62-2503
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	FAX 0573-82-2109
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	FAX 0536-23-2254
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	FAX 0576-25-2420
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島1250-7	TEL 0264-22-2122	FAX 0264-21-3151
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	FAX 0265-22-0149

発行：林野庁 中部森林管理局
編集：総務課 広報
〒380-8575 長野県長野市栗田 715-5
電話：026-236-2531
FAX：026-236-2733
<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>
または、右のQRコードを読み込んでください。



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。